

居場所の持つ意味

「無縁社会」という言葉が以前話題になりましたが、いろいろな「縁」から「切縁」されている人が多くなってきた感じです。「社縁（会社縁）」「地縁」「血縁」から切り離され、それを繋ぎ戻すことは困難な状況かもしれません。そのため学者によっては、「選択縁」「必要縁」の概念を持ち出したり、ドリームハイツで参与観察された徳村光太さんは、「可變的场所縁」「面識縁」を「ふらっとステーション・ドリーム」の活動の中に見出していました。

「ふらっとステーション・ドリーム」は、地域住民の「居場所」を標榜しています。居場所は、確かに新しい「縁」を紡ぎだしている場所であることは確かです。

居場所に求められる姿としては（さわやか福祉財団のガイドブックより）

- 1 いつでも立ち寄れて、いつでも帰ることができる
- 2 誰もが利用できる
- 3 時間を自由に過ごすことができる
- 4 経験や能力を生かすことができる
- 5 自分の存在を認識できる

以上5つが記載されています。

ふらっとステーション・ドリームは、日々これを実践しているわけで、月平均1,200人・年間約14,400人の人々が来られ、利用されます。

常連の利用者が増え、そこで顔見知りとなり、声を掛け合い、安否を確認することも多くなってきました。

間もなく開室満7年になります。すっかり地域に根付いたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

平成24年11月11日 理事長 泉 一弘